

	課題分析	授業改善策
国語	<p>【文章読解】 ○文章を読むことに抵抗があり、読解そのものに時間がかかりすぎている生徒がいる。</p> <p>【基礎的な言語知識】 ○語彙が少なく、漢字にも苦手意識をもっている生徒が多い。</p>	<p>【文章読解力】 ○教科書を何度も丁寧に読むことで、文章の構成や特徴に気付き、接続する言葉や指示語にそって的確な読解ができるように指導する。</p> <p>【基礎的な言語知識】 ○定期的な漢字の小テストや漢字ワークの提出・チェックを通して、継続的に生徒の基礎的な言語知識の向上を図る。</p>
社会	<p>【知識・技能】 ○語句を覚えることに課題がある生徒がおり、活用する力を求めるまで達していない。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 ○物事を覚えることは得意な生徒もいるが、資料を見て考える力は低い。また、個人差も大きい。加えて、多面的・多角的な見方ができず、1つの答えを探し、分からないと思考が止まってしまう生徒が多い。</p> <p>【学びに向かう力】 ○授業の振り返りを工夫しながら行う生徒が多くいる反面、文章を書くことに抵抗を感じる生徒もいる。</p>	<p>【知識・技能】 ○教科書・資料集などを多く活用して、ICT機器も活用し、資料を読み取る力を伸ばす工夫を行う。</p> <p>○重要語句については、eライブラリなどを活用し、反復させるようにする。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 ○自分の考えをまとめる場面を多くつくり、表現する力を付ける。簡単な課題から難しい課題まで様々なパターンで提示できるようにする。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○授業で得た知識を基に、考察し、まとめられるような活動を、タブレットPCなどを活用し行うことで、自分で進んで取り組めるようにする。</p> <p>○授業の中で、時事に関する問題を取り上げることによって、社会事象に関心をもたせ、その問題に主体的に考える力を付けさせる。</p>
数学	<p>【計算力】 ○計算の理解度やスピードの差が大きい。分数等の計算に苦手意識のある生徒がいる。</p> <p>【文章表現力】 ○自分が理解した内容を文章にして説明する、問題文から式を立てることを苦手とする生徒が多い。</p>	<p>【基礎計算力の向上】 ○計算練習の時間をしっかり確保する、章ごとに確認テストやレポートを実施する等、繰り返し学習内容を振り返ることで、理解を定着させる。</p> <p>【話し合い活動の充実】 ○毎時間の学び合い活動を通して、人に説明する力・人の話を聞く力を付けていく。必要に応じて図や表を活用できるよう、授業の中で情報を提示していく。</p>

理科	<p>【科学的思考】 ○「科学的に考える」姿勢が、身に付いていない生徒がいる。</p> <p>【理解】 ○個々の事象に対する理解が十分ではない生徒がいる。</p> <p>【基礎的事項】 ○基礎的な知識の定着が不足している生徒がいる。</p> <p>【文章表現能力】 ○実験観察の考察や発表などでなど、自分の考えを十分に表現できない生徒がいる。</p>	<p>【科学的思考】 ○実験観察において仮想を立てたり、班での話し合いによる意見の共有など、科学的思考を促すような、授業展開・発問を行う。</p> <p>【理解】 ○実験観察や視聴覚教材等を活用し、理解を促す。</p> <p>【基礎的事項】 ○基礎的基本的な学習を繰り返し、内容の定着を促す。</p> <p>【文章表現能力】 ○発表の機会を増やしたり、ノートやレポートの点検などを通して、正しい文章表現の指導を随時行う。</p>
音楽	<p>【興味・関心】 ○生徒の興味・関心を高める工夫が必要である。</p> <p>【創意工夫】 ○基礎的な表現の技能や知識を身に付け、創意工夫をして表現する能力を育て、音楽表現するための技能を身に付けさせる必要がある。</p> <p>【達成感】 ○自己評価を工夫して達成感を味わう必要がある。 ○学校行事との関連を図りながら、達成感をもたせる工夫が必要である。</p>	<p>【鑑賞の能力】 ○多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。</p> <p>【教材選択】 ○音楽に対するイメージをもち、創意工夫して表現できる教材を精選する。</p> <p>【自己評価】 ○自己評価を行い、授業への取組を確認するとともに自分の実力をしっかりと把握し、向上心を育てる。</p>

美術	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○自己評価が甘いため、生徒自身で自分の作品の改善点を見付け、作品の質を高めさせる必要がある。</p> <p>○落ち着いて授業に取り組めるが、準備や片付けの時間も授業だという認識が薄い。</p> <p>○長い時間、集中して制作に取り組めるよう工夫する必要がある。</p> <p>【発想や構想力】</p> <p>○目に見えないものを想像し、描写する力を高める必要がある。</p> <p>【創造的な技能】</p> <p>○ものを観察し、形、陰影を描き出す写実力を高める必要がある。</p> <p>○混色の仕方やムラのない丁寧な平塗りを習得する必要がある。</p>	<p>【制作意欲を持続するために】</p> <p>○生徒の良いところを認め、より良い作品にするために適切なアドバイスを行う。</p> <p>○見通しをもって計画的に作品制作ができるようにするため、制作シートで毎時の振り返りや次回の目標を設定させる。</p> <p>○準備や片付けにおけるの注意事項を事前に明確に伝えた上で指導を行う。</p> <p>○作品鑑賞会で互いの良い点を発見させる。</p> <p>○身近な生活の中に美術が生かされていることを認識できる時間を設ける。</p> <p>【発想力を高めるために】</p> <p>○参考作品を提示し、制作意欲を高める。苦手意識のある生徒へ個別指導を行う。</p> <p>○達成感が味わえる教材作りをする。</p> <p>【創造的な技能をつけるために】</p> <p>○短時間デッサンタイムを習慣化し、各生徒の成長が分かるように、日付と目標を記録する。</p> <p>○三原色を活用した色つなぎや平塗りの基礎練習を行う時間を設ける。</p>
保健体育	<p>【健康安全に留意した授業】</p> <p>○『授業規律』をしっかりと守り、落ち着いて安全に授業に取り組む姿勢を身に付けさせることが必要である。</p> <p>【個に応じた指導】</p> <p>○運動の得意な生徒と苦手な生徒との能力差に対応する指導の工夫が必要である。</p> <p>【自主的課題解決】</p> <p>○自ら課題を設定し、自主的に課題解決に取り組む力を育む指導が必要である。</p>	<p>【健康安全な授業】</p> <p>○服装、挨拶、準備運動のルール確認を徹底し、授業の説明や注意点を落ち着いた態度で聞かせ、理解させる。</p> <p>【段階的な指導の工夫】</p> <p>○授業のねらいを明確にし、スモールステップで技能練習を繰り返す。また、ICT機器を取り入れ、映像資料を有効に活用し、理解させる。</p> <p>【課題発見活動】</p> <p>○ICT機器を用いて振り返りや映像等、点検・確認させ、課題解決に向けた練習を考えさせる。</p> <p>○グループ及びペア学習で互いに意見を出し合い、課題解決のヒントに気付く活動を取り入れる。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">技術・家庭</p>	<p>《技術分野》</p> <p>【知識・技能】</p> <p>○技術に必要な知識・技能の習得を、実習を通して学ぶ必要がある。見方・考え方を養い、トレードオフの視点をもたせる必要がある。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○基礎的・基本的な知識の定着を図る必要がある。目まぐるしい時代の変化に対応するため、その知識を基に、問題解決学習の実践、新しい発想を生み出そうとする姿勢を育む必要がある。</p> <p>【興味・関心】</p> <p>○各分野において、他教科との関連性をもたせ、生産・消費の視点や職業などのキャリア教育という観点から、関心意欲を高める必要がある。</p> <p>《家庭分野》</p> <p>【健康的な食生活への関心】</p> <p>○普段食べている食品や健康的な食生活に対する関心・知識に個人差がある。生徒一人一人が、健康的な食生活を送ることの良さを理解し、自身の食生活に関心をもてるよう工夫する必要がある。</p> <p>【基本的な調理技術の習得】</p> <p>○今年度の1年生は、小学校高学年の時期に新型コロナウイルス蔓延の影響で調理実習に制限があり、基本的な調理技術を習得できていないと考えられる。</p>	<p>《技術分野》</p> <p>【目標の把握】</p> <p>○題材ごとの評価内容・方法を明確に提示し、授業のねらい・目標を理解させる。</p> <p>【教材選択】</p> <p>○生徒の技術的な興味・関心を理解した上で教材を精選する。</p> <p>○製作実習において、一つの作品を時間内に終わらせることのできる教材を選択し、作品を完成させた達成感を味わわせる。</p> <p>【学習の定着】</p> <p>○製作実習時の技能試験、題材終了時に確認テストを実施する。</p> <p>《家庭分野》</p> <p>【実生活に即した実践的な授業】</p> <p>○生徒が自身の食生活を振り返ったり、より良い食生活についてグループで話し合ったりする活動を充実させ、健康的な食生活への関心を高める。</p> <p>○教科書・ワークノートだけでなく ICT 機器や視聴覚教材を積極的に活用する。</p> <p>【基本的な調理技術の習得のための授業】</p> <p>○感染状況に応じて、感染症対策を徹底しながら、調理実習を行う。</p> <p>○調理実習の履修時期と感染症の感染拡大が重なってしまった場合は、単元の入替えなど進度を調整し、できるだけ調理実習の回数を確保する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">外国語（英語）</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>○基礎基本が定着しておらず、既習事項の繰り返しの学習が必要である。</p> <p>【表現】</p> <p>○スピーチや英作文等の自己表現活動に苦手意識をもつ生徒が多い。身近な話題から英語で表現する経験を重ね、自信をもって話したり書いたりできるようにすることが必要である。</p> <p>【授業の実態】</p> <p>○ペアワーク・グループワークにおおむね意欲的に取り組んでいるが、意欲・理解力に差があり、個に応じた配慮が必要である。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>○新出文法導入時に既習事項の確認から入りにする。また、語彙指導では、語彙を広げたり、深めたりする活動を継続し、基礎の定着と応用力を身に付けさせる。</p> <p>【表現】</p> <p>○ペアワークやスピーチ等の言語活動で、即興で発話する機会や ALT と話す機会を増やし、達成感や自信につなげる。</p> <p>【授業の実態】</p> <p>○場面や活動に応じてペアやグループの形態を工夫し、協力して取り組めるよう指導する。</p>